

令和6年度 第3回 山城地方学力向上対策会議 を開催しました！



令和6年度第3回山城地方学力向上対策会議を開催し、「全国学力・学習状況調査」「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」における山城教育局管内小中学校の結果の分析、活用についての報告を行いました。また、他にも11月8日(金)に開催の「山城地方教育実践フォーラム」の具体的な運営方法や「山城地方学力向上を目指す教育実践交流会」の実施内容について協議を行いました。

- 1 日 時 令和6年10月22日(火)午前10時から同12時まで
- 2 場 所 京都府山城教育局 会議室
- 3 出席者 山城地方学力向上対策会議員 24名
- 4 概 要

令和6年度の「全国学力・学習状況調査」「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の調査結果から、山城教育局管内小・中学校の「令和5年度の授業改善の取組」の検証を行いました。

また、調査結果について、京都府平均値や全国平均値との比較、山城教育局としての経年比、質問紙回答における回答状況等を分析し、成果と課題から、今年度の学力充実・学力向上への手立ての方向性を確認しました。

山城教育局 令和6年度 学力・学習状況調査 結果

Ⅰ.全国学力・学習状況調査

平均正答率

○ 小学校6年生算数において、全国平均を 2.6pt上回る。

▲ 小学校6年生国語、中学校3年生国語、数学において、いずれも全国平均を下回る。

学力層について (全国平均と比較)

- ▲ 小学校6年生国語 … A層(正答数10～14問)が少なく、C層(5～9問)が多い。
- 小学校6年生算数 … A層(正答数14～16問)が多く、D層(0～5問)が少ない。
- ▲ 中学校3年生国語 … A層(正答数12～15問)が少なく、D層(0～4問)が多い。
- ▲ 中学校3年生数学 … A層(正答数13～16問)が少なく、C・D層(0～8問)が多い

- ・小学校算数科においては、さまざまな取組・指導・支援によりD層を減らすことができています。
- ・他教科においても、授業改善によるC・D層の子どもたちへの手立て(単元・授業づくり)が必要。

2.京都府学力・学習状況調査【学びのパスポート】

小学校4～6年生、中学校1～3年生いずれも、令和5年度からの学力の伸び率が、京都府と同程度もしくは京都府平均をやや上回る。(中1、中3数学以外は、学力ステップ1～3の伸びが見られた。)

3.児童質問紙調査 (全国学力・学習状況調査・京都府学力・学習状況調査【学びのパスポート】)

「国語・算数/数学は大切、よく分かる」「先生はよいところを認めてくれている」「分かるまで教えてくれている」「学び方を自分で工夫することができる」「困りごとを学校にいる大人に相談できる」「学校にいくのが楽しい」と肯定的回答をする児童が7～8割いる一方で、2～3割の児童生徒は否定的回答をしている。

これらの 否定的回答は、局経年比では減ってきているが、全国平均より上回っている状況。

4.非認知能力（京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～）

- ・学力値と非認知能力の相関は低い。（相関係数 0.2 未満）
- ・非認知能力の「自己調整」「学びに対する積極性」は、学力値と弱い相関が見られた。（相関係数 0.21～0.27）
- ・非認知能力（自己調整・学びに対する積極性・計画性と、学習方法（体制化・精緻化・主体的・対話的で深い学び））には相関が見られた。（相関係数 0.44～0.61）
- ・非認知能力を育むためには「学習方法」（「体制化」「精緻化」「主体的・対話的で深い学び」）の改善が鍵となる。
- ・学力値と非認知能力を一体的に育むには「自己調整」「学びに対する積極性」が鍵となる。

●成果

- ・小6算数で A 層の増加、C・D 層の減少
- ・「国算が好き、大切」等の回答で局経年比が上昇
- ・ICT の使用頻度の上昇

▲課題

- ・小6国語、中3国語・数学で全国比を下回る（CD 層が多い）
- ・「学校に行くのは楽しい」「先生は自分を認めてくれる」等についての否定的回答の割合が全国を上回る。

調査結果からみる学力充実・向上の取組について

令和5年度 授業改善の取組の検証

令和5年度 授業改善の視点

■検証結果

1.単元・題材を見通した1時間の授業づくり	○単元のまとまりを見通した授業改善は進んでいる。 ○学ぶ意義、目的を受け止めながら学習に取り組む児童生徒の割合が増えている。
2.振り返りの充実 非認知能力の育成を意図	○授業のねらいに対してのまとめ、本時の振り返りをおこなう授業改善の意識は高まってきている。
3.ICT の効果的な活用	○ICT 機器の使用頻度、児童生徒の授業での活用は高まってきている。 ▲使用頻度が高ければ学力が上がるというものではない。 どのような活用が本時のねらいの達成のために効果的かを吟味して単元・授業づくりをしていくことが大切

1. 全国学調の学校質問において「学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」と答えた学校が増加。児童生徒質問においても、「国語・算数/数学が好き、大切、よく分かる、役に立つ」と答えた児童生徒が令和5年度との局経年比で、軒並み増加。
2. 京都府学調児童生徒質問調査「授業では、授業の最後に自分自身の学習内容を振り返り、学習目標（めあて）が達成できたかどうかを考える機会がある」と肯定的回答をした児童生徒が7割前後で、局経年比でも概ね上昇傾向にある。
3. 全国学調の学校質問で「ICT 機器をどの程度使用させたか」について、「週3回以上」と回答した学校が、小学校は R5 の 50.7%から63.7%に上昇。中学校においても R5 の 51.4%から57.2%へ上昇した。一方で、小6国語、中3国語・数学の学力値は全国比で昨年度から下がっていることから、本時の目標の達成や資質・能力の育成へつなげるための効果的な ICT の活用場面・方法を吟味した授業づくりが求められる。

令和6年度 学力充実・向上の取組

○主体的・対話的で深い学びの実現・充実に向け、やましろ授業スタンダード（改訂版）等をベースとした「自ら学びをマネジメントする力」の育成を目指した授業改善3つのポイントに、今年度調査結果の課題を照らし合わせ、具体的な支援について考えました。

- | | |
|-------------------------|--|
| 1.主体的な学びとなる単元構想・授業づくり | ○主体的な学びにおいて、自己調整、積極性、計画性など「学習方法」に着目した授業づくり |
| 2.個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | ○ICT を効果的に利活用した C・D 層への支援 |
| 3.学習指導と生徒指導の一体化 | ○生徒指導4つの視点を生かした授業
○褒める授業から認める授業へ |

今年度も「山城地方教育実践フォーラム」【令和6年11月8日（金）13:40～】を宇治市立御蔵山小学校、宇治市立東宇治中学校にて開催します。主体的・対話的で深い学びの視点からの単元・授業づくりを通して、参加者は自己の実践を振り返り、自校の課題解決に向けて協働的に学びを深めます。学力向上対策会議員はスタッフ及びオブザーバーとして、参加者の学びをサポートします。